

年間テーマ『旅する心優しきアイルランドの人々』

講師：高木朝子氏（熊本高専熊本キャンパス准教授）
演題：『アイルランド妖精の旅』

ラフカディオ・ハーンの父方のルーツはケルト（アイルランド）の民人であった。この民族のルーツはヨーロッパの臍（へそ）とも言うべき現在のオーストリア、ザルツブルク近郊の山中にあった。そして彼らは此处から西に向かって壮大な旅（移動）に出ていくのである。

ケルトの民は旅する民であった。ボヘミアンとも言われ、貧しくも力強い「流浪の民」であった。途上で出会ったラテン（ローマ）の軍勢に百戦百敗してイベリア半島に逃れ、遂に海を越えて北上し、ブリトン島（現在のイギリス）の周縁部にたどり着いた。現在のスコットランド、ウェールズ、アイルランドである。

旅する民は組織的な戦や国家形成・維持などは苦手であった。しかし芸術を生み出し、これを伝承していく文化力はすぐれていた。この心は詩や歌に託され、絵や踊りを演劇に結実して今日に伝えられている。

ハーンはその血を受け継いでいたと思われる。美しい散文は誌的で、民族の魂が込められた民話や説話や諺などへの愛着は大きかった。私たちの知る『怪談』や『骨董』はこの心から生み出されたものであった。

この市民講座では、熊本に約三年間いたハーンの心に繋がってアイルランドの心を皆様とともに楽しみたいと思います。皆様ぜひお越しください。

講師からひとこと

アイルランド民話のなかでは、人々は旅に出て不思議なものたち（妖精たち）と出会ったり、あるいは無理やり連れ去られて旅のお供をさせられたりします。流浪の民であったケルトの人々の「旅」に対する精神が、人々の間で語り継がれた民話にも受け継がれているのかもしれない。

この講座では、アイルランドの人々の旅の歴史に少しだけ触れながら、アイルランド民話のなかの妖精たちとの旅について一緒に読み、考えていこうと思います。

高木朝子

期日：令和6年7月6日（土）14：00～15：30 参加費：無料

会場：お菓子の香梅帯山店ドゥ・アート・スペース（熊本市中央区帯山7-6-84 国体道路沿い）

次回 8月3日（土）八幡雅彦（別府大学短期大学部名誉教授）

「アイルランド系アメリカ人小説のうちに見る "Irish Spirit"」です。

※ご来場は、駐車場が狭いため公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせは熊本アイルランド協会事務局へ

Tel.096-366-5151 Fax.096-372-1857 / Email:office@kumamoto-ireland.org